

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597100035		
法人名	株式会社 ひまわり		
事業所名	グループホーム こすもす		
所在地	山口県大島郡周防大島町小松開作143-27		
自己評価作成日	R2. 11/16	評価結果市町受理日	令和3年5月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者個々人の特性に合わせて生活リズム、ペースを保てるよう側面的に支援させてもらっています。ホーム内での社会性をそれぞれの利用者が築いており、小さなコミュニティとして機能しているようにも思えます。気の合う者同士が集まってゲームやおしゃべりをしたり、自室で休みたい方はそうしてもらっています。
健康面では職員による毎日のバイタルサインチェック、看護師による毎週の健康チェック、主治医による往診、受診付き添い、栄養士による献立の作成にて対応しています。
職員の残業は皆無であり、管理者の事務作業はデスクという日を設け無理なく働けるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、事業所独自の理念を出勤時に確認され、ミーティングや申し送り時に話し合われて、利用者との関係性に配慮され「その人らしく過ごせる」ことを大切にされて、理念の実践につなげておられます。食事は、法人の栄養士の献立に基づかれ、旬の食材を使って三食とも事業所で調理されています。利用者は、調理の準備や後片付けなど、できることを職員と一緒にしておられ、職員は、感染予防の消毒や利用者の水分補給、食事を食べる姿勢に常に気を付けておられます。季節の行事食(おせち、節句、ひな祭り、クリスマス)や誕生日会のケーキづくり、おやつづくり(ゼリー、ぜんざい、白玉団子、ホットケーキ)など、食事が楽しめるよう支援されています。テレビの視聴(報道番組、歌番組)やDVD(歌謡曲)の視聴、新聞や雑誌を読む、広報や回覧を見る、季節の壁画づくり、習字、カレンダーの目めくり、ぬり絵、カラオケ、歌を歌う、トランプ、カルタ、百人一首、しりとり、棒体操、テレビ体操、脳トレ(漢字、計算、ことわざ)、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、食事の手伝い、花瓶の水やり、季節の行事(節分の豆まき、クリスマス会)など、楽しみごとや活躍できる場面づくりをされて、利用者が喜びのある日々が過ごせるよう支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを念頭に理念を作り、その人らしく過ごせるよう共通認識として取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は、出勤時に確認し、ミーティングや申し送り時に話し合い、理念を共有し、利用者の関係性に配慮して「その人らしく過ごせる」ことを大切に、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	旧知の友人の訪問や近隣へのお出かけなどをしていたが、最近では新型コロナウイルスの影響を受けて交流には乏しい。	自治会に加入し、回覧板や広報が廻ってくる。地域の行事や事業所の行事は、新型コロナの影響で殆んど中止となり、地域の人との交流は少なくなっている。例年、交流のあったボランティアの来訪も控えているが、馴染みのボランティアからの電話があり、月1回訪問美容院の来訪がある他、地域より花の差し入れがあるなど、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて日常の生活ぶりや認知症への対応の話を見せてもらっている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価にて目指していくべき関与の仕方を知っていき、疑問に対しては話し合いをしている。	管理者が評価の意義を個別に説明し、全職員に評価をするための書類を配布し、個々に自己評価を記入後、管理者がまとめている。自己評価を実施することで、利用者の個別ケアの振り返りができている他、記録の方法や地域との付き合い方の工夫などの課題が見つかり、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて日常生活の報告をしてそこで出された意見を申し送っている。	会議は、隣接する法人の他グループホームと合同で年6回開催し(文書開催を含む)、利用者の生活状況や入退去状況、行事報告、ヒヤリハット・事故報告、外部評価の報告を行い、意見交換を行っている。会議では、コロナ禍での面会方法や感染症対策、事故発生時の対応についての質疑応答があり、意見をサービス向上に活かすよう努めている。	・運営推進会議を活かした取り組み
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外では市町村担当者と連絡を密に取る機会に乏しい。	町担当者とは、運営推進会議時の他、電話や直接に出向いて相談するなど協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換するなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはミーティング時に話し合いをして理解に努めている。玄関の施錠は利用者の要望によって開けている。	「身体拘束等に関する手引き」に基づき、身体拘束等適正化委員会を運営推進会議に合わせて毎回開催し、申し送り時にも身体拘束について話し合っている他、年2回の勉強会で、身体拘束について学び理解している。資料は、職員個々のファイルに閉じてあり、いつでも振り返ることができる。玄関は施錠しているが、利用者が外に出たい時は職員が声かけをするなど、利用者が閉塞感を持たないように配慮している。スピーチロックについては、勉強会で学び、職員間で注意し合っている他、気になる言動があれば管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本来ならミーティング時に学ぶ機会があるが、この度ミーティングを開けていない。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者がないこともあり、学ぶ機会に乏しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長や管理者が入所時に利用者や家族に気持ち聴いていき、不安を和らげるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍ということで各利用者の家族の方への近況報告の際に意見や要望を聴いていったが特がない。	相談・苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。面会時やケアプランの説明時、電話等で家族の意見や要望を聞いている。2か月に1回事業所だよりを送付して近況を報告し、家族からの意見が出しやすい雰囲気づくりに努めている。玄関に意見箱を設置している。コロナ禍における面会等の対応など、個別のケアに対する要望はその都度対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時を利用して管理者から各職員へ意見を聞いたり、代表者が定期的に訪れては職員に意見を聴いていっている。	コロナ禍で、ミーティングなどの多人数で集合する会議は中止しているが、日々の申し送り時や日常業務の中で職員の意見や提案を聞いている他、代表者の来訪時に随時職員に声をかけて、意見や提案を聞いている。消毒物品や抗菌マスクなどケアに関する提案はあるが、運営に反映させるまでの意見や提案は出ていない。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2019年末から特定処遇改善加算の申請をし、改善金を支給している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受ける機会に乏しい。	外部研修は、職員へ情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供しており、初任者研修に参加している。内部研修は、インフルエンザ予防、身体拘束・スピーチロック、嘔吐物の処理について実施しているが、4月以降は、コロナ禍の影響で実施できていない。新人研修は、初任者研修を受講している。資格取得については、研修などの情報提供をしている。	・計画的な研修の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流機会に乏しい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の個性、特性を掴むまではどうしても話しをする必要があり、話しているうちに関係ができていっている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時ならではの本人、家族の不安を和らげるよう話しを聴いている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	危機介入アプローチを視野に入れた優先すべきサービスを提供している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員ではあるが、親しみやすく同じ社会の中で暮らしていくパートナーとしての関係づくりをしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの様子の確認などの電話もあり、共に支えていく関係性を築いていっている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の友人たちが訪れるなど関係の継続に努めている。	家族の面会や親戚の人、近所の人々の来訪がある他、年賀状や手紙、電話での交流を支援している。面会は、ソーシャルディスタンスを保ち、短時間の面会にするなど工夫をしている。家族の協力を得ての外出では、受診時に家族と落ち合っている程度で、関係継続の支援の機会はコロナ禍で少なくなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の好き嫌いはあるようであるが、そういう関係の方も含めて皆で行うレクリエーションを通して自然に通じ合えるようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動などは、契約終了後少しの間は様子を聞けたりしてはいるが、時間が経つと他施設ということもあり聞きにくい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を酌めるように話し込んだりしている。	入居時にアセスメントシートや入居時相談面接記録を活用している他、日々の関わりの中での利用者の様子を生活記録に記録して、職員間で話し合い、思いや意向の把握に努めている。前回の外部評価結果から、利用者の日々の記録は、できる限り本人の話す言葉を記載するように努めるなど、記録の見直しをしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎日の記録で使用する健康記録に生活歴を書き込んでいる。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの健康記録や生活記録を記録している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向を元に本人に携わっている看護師や医師の意見、介護職員の意見を聴いて作成している。	計画作成担当者を中心に月1回カンファレンスを開催し、利用者や家族の思いや意向、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。利用者の状態に変化があるときはその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々人の生活記録を参考にしながら申し送りや情報共有したり計画の参考にしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のその時の状況によって対応の仕方を柔軟にしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス蔓延のため状況的に難しい。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医に着けるよう支援し、納得が得れるようにしている。	事業所の協力医療機関の他、利用者や家族が希望する医療機関がかかりつけ医となっており、それぞれ定期的な訪問診療や受診があり、他科受診を含めて家族の協力を得て、事業所で支援している。受診結果は、電話で家族に報告している。週1回看護師による健康管理を行っている。緊急時や夜間は管理者を中心にそれぞれのかかりつけ医と連絡して指示を仰ぎ、必要に応じて救急車で対応するなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による週に一回の訪問で疑問や不安のある利用者について、医療機関に掛かるべきか当看護師の処置でいいか聞いていっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際にはサマリーを作成し、医療関係者と話をしながら情報交換できるようにしている。入院後は定期的に様子を見に行き、看護師から経過を聴いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況や認知能力の変化により本人、家族と話し合いながら他施設などの検討もしていている。	契約時に重度化や終末期に向けて事業所ができる対応を家族に説明し、「利用者重度化対応の指針に係る同意書」により同意を得ている。実際に重度化した場合は、家族や主治医と話し合い、方針を決めて共有し、医療機関や他施設への移設を含めてチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	看護師による定期的な演習や講義によって事故防止に努めている。	事例が発生した場合は、インシデント・アクシデントレポートに発生状況や発生場所、対応と経過、今後の対応を記録し、その日勤務している職員で対策を話し合い、記録を回覧して共有している。利用者の状態を観察し、日々職員で話し合い、申し送り再検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。事故発生時の備えとして、看護師から事例ごとに応急処置について学んでいるなど、日常業務の中で指導を受けているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については消防訓練をしているが、地震、水害については行政が提供している重ねるマップの把握に努めている。	年2回、併設のデイサービスセンターと合同で、昼間を想定した火災時の避難訓練を実施している。訓練は、通報、避難、消火訓練を実施している。事務所内にハザードマップを掲示して職員へ周知している。これまでは、近所に住んでいる消防士と情報交換をしていたが、コロナ禍の中で中断しており、地域との協力体制を築くまでには至っていない。非常時の備蓄として、水や缶詰めを用意している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者である自尊心を考慮して、言葉遣いや態度に気を付けて対応している。	利用者一人ひとりを人生の先輩として人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる言動や対応については管理者が指導している。個人記録の保管に留意し守秘義務を遵守している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの参加、入浴の希望など本人のその日のその時の気分に合わせて決定してもらっている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの気分の日内変動にも対応していき、本人の希望に沿えるようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院によるカットや入浴、化粧クリームなどを利用しておしゃれができるようにしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の助言を受けたり自主的に食事の準備や片付けをしている。	法人の栄養士がたてた献立に基づき、配達される食材や旬の食材を使って三食とも事業所で調理している。利用者は、もやしのひげ取りなどの下ごしらえやテーブル拭き、盆ならべ、盆拭き、配膳、お茶くみ、下膳、食器拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者の状態に合わせて刻み食を提供している。職員は、感染予防の消毒や利用者の水分補給、食事を食べる姿勢にも気を付けている。利用者と職員は、同じ食事を摂っている。季節の行事食(おせち、節句、ひな祭り、クリスマス)、誕生日会のケーキづくり、おやつづくり(ゼリー、ぜんざい、白玉団子、ホットケーキ)など、食事が楽しめるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作った献立表によって栄養管理をしており、個人によっては小さく刻んだりしている。水分補給は食事時、コーヒータイム、おやつの時間、入浴後などに小まめに摂取できるよう援助している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に緑茶を利用してうがいをしている。就寝前、起床時に口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれトイレに行き、長い時には排便の有無を聞いていき、時系列に記録できるようにしている。全利用者トイレにて排泄。	介護健康記録を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便が滞っていたり訴えがある時は主治医にや看護師に相談したり冷たい牛乳を飲んでもらったりしている。体操や行進などで腸の運動のきっかけを作っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、各人を誘って要望を聞いて入浴の選択をしてもらっている。夜間は職員の人数的に選択は難しい。	入浴は毎日、10時から12時、13時から15時の間可能で、利用者の希望や体調に合わせて、2日に1回は入浴を楽しむことができるよう支援している。利用者の状態に応じて清拭、シャワー浴、足浴で対応しており、ゆず湯で入浴を楽しむ工夫もある。入浴をしたくない利用者には、タイミングに合わせた言葉かけや時間を変更し、無理強いしないように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールに出ている時でも個々人のペースで自室に戻り休んでいる。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットをする時に薬の種類と効果を見ながら確認できるようにしている。日常の様子を主治医の往診時などに伝えている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の特性や生活歴を活かした手伝い事やレクリエーションを行っている。	テレビの視聴（報道番組、歌番組）やDVD（歌謡曲）の視聴、新聞や雑誌を読む、広報や回覧を見る、季節の壁画づくり、習字、カレンダーの日めくり、ぬり絵、カラオケ、歌を歌う、トランプ、カルタ、百人一首、しりとり、棒体操、テレビ体操、脳トレ（漢字、計算、ことわざ）、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、食事の手伝い、花瓶の水やり、季節の行事（節分の豆まき、クリスマス会）など楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、喜びのある日々を過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス蔓延のため状況的に難しい。	新型コロナの発生以降は、外出を控えていることもあって、近所への散歩や受診に行くときに、周りの景色を見たり、病院で家族と落ち合って話をするなどの支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームで金銭の管理をしており、各人の必需品で足りなくなれば職員が買って来て領収書を家族に送っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば電話をかける援助をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度に気を配って調整している。利用者からの訴えもあるので対応している。掲示物には季節感のある絵や利用者の写っている写真などがある。	玄関には、季節の花を飾り、リビングにテーブルや椅子、ソファ、畳ベンチ、テレビ、ラジカセ、雑誌が置いてあり、キッチンからは食事をつくる匂いや音がして生活感がある。壁面には、日めくりカレンダー、行事の時の写真やぬり絵、貼り絵、習字、利用者と一緒に作った季節の作品が飾ってある。部屋の温度、湿度、換気に配慮し、利用者が心地よく過ごせる工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時、各人の関係性の都合で一応の席は決まっているが、自由に移動してはおしゃべりをしたり、ソファで読書をしたりしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を自室に配置したり、今までの家族写真などを掲示して落ち着ける環境を作っている。	ダンス、衣装ケース、テレビ、時計、椅子、加湿器など利用者が使い慣れたものや好みのものを持ち込み、写真やカレンダー、本・雑誌、人形、ぬいぐるみ、造花や生花を飾り、備え付けの洗面台には洗面用具や化粧品を置き、利用者が安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール全体に手すりを設置している。トイレや入浴場にはその旨、各人の居室やホールの椅子にはそれぞれの名前を貼っている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム こすもす

作成日: 令和 3 年 5 月 22 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議で話し合われた内容を取り入れできていない。	会議での内容を職員間の申し送りやミーティングでの話し合いに活かし、また、家族訪問時や電話連絡時に報告や意見を募れる。	会議が開催された内容を定期的に申し送り、家族への近況報告時に会議での内容も加えていく。	12ヶ月
2	14	新型コロナウイルスの影響で外部との接触を断っていることもあり、多人数が集まる所は難しくなっている。	コロナが収束に向かうにつれて外部研修の機会を増やし、また、内部研修もミーティングの後に取り入れる。	外部研修の情報を職員に公開していく。	12ヶ月
3	35	事故発生時に関する手当の情報提供や訓練は行ってはいるが、定期的な訓練を行っていない。	ホームで起きやすい事故や応急手当に備えて継続的に指導を受ける。	看護師に協力を仰ぎ、ホームで起きやすい事故や応急的な対処の仕方を継続的に訓練できるようにしていく。	12ヶ月
4	36	火災に対する消防訓練や自治体が提供している避難マップの周知はしているが人的な協力体制は乏しい。	地域レベルでの協力体制の構築ができる。	運営推進会議で自治会長や地域住民の方に情報や指導を仰ぎ、協力をお願いしていく。	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。